

電子自治体実現に向けた今後の課題

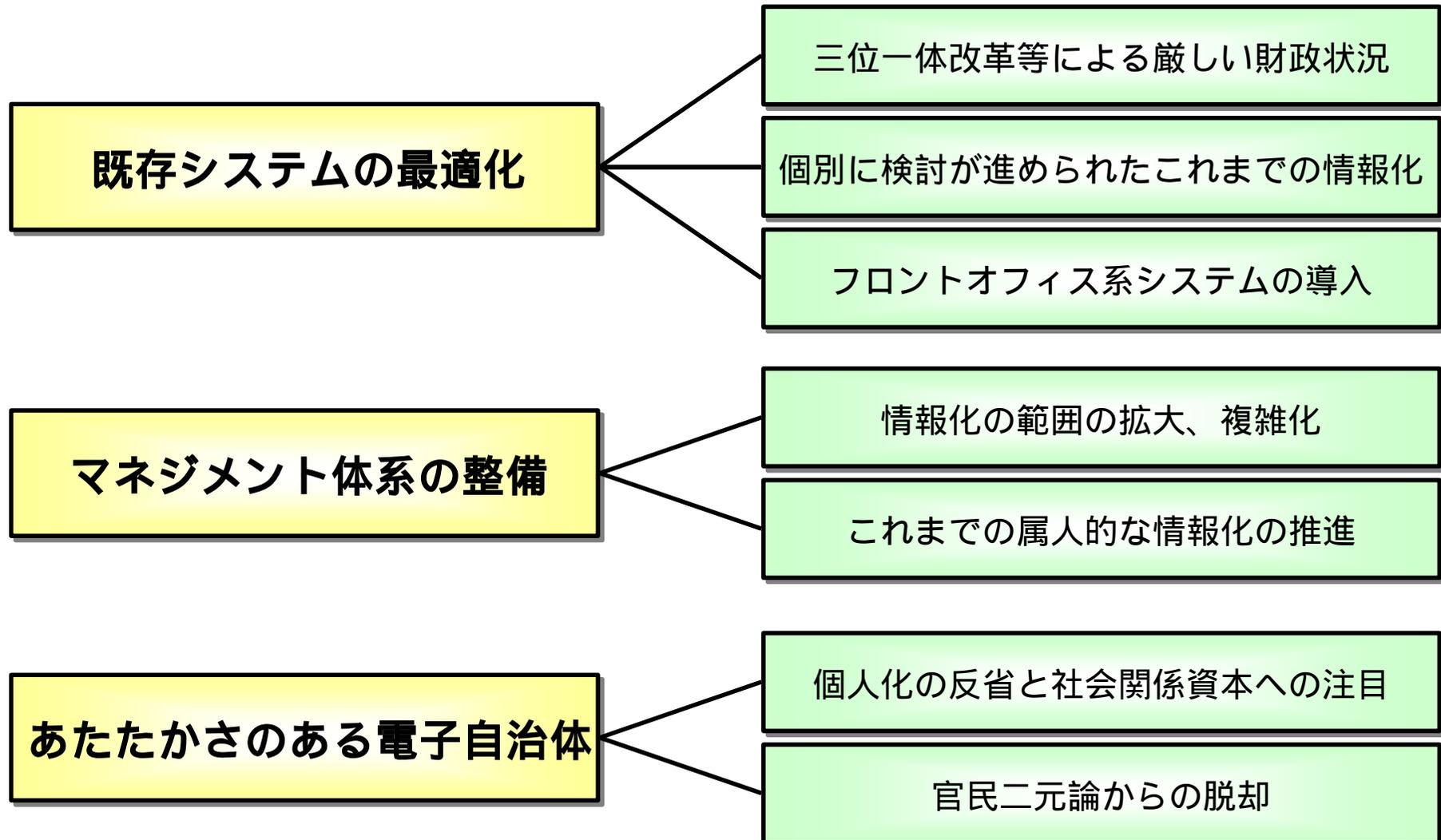
平成16年6月24日

美馬 正司

広い視野から見た場合の電子自治体の課題

課題

背景



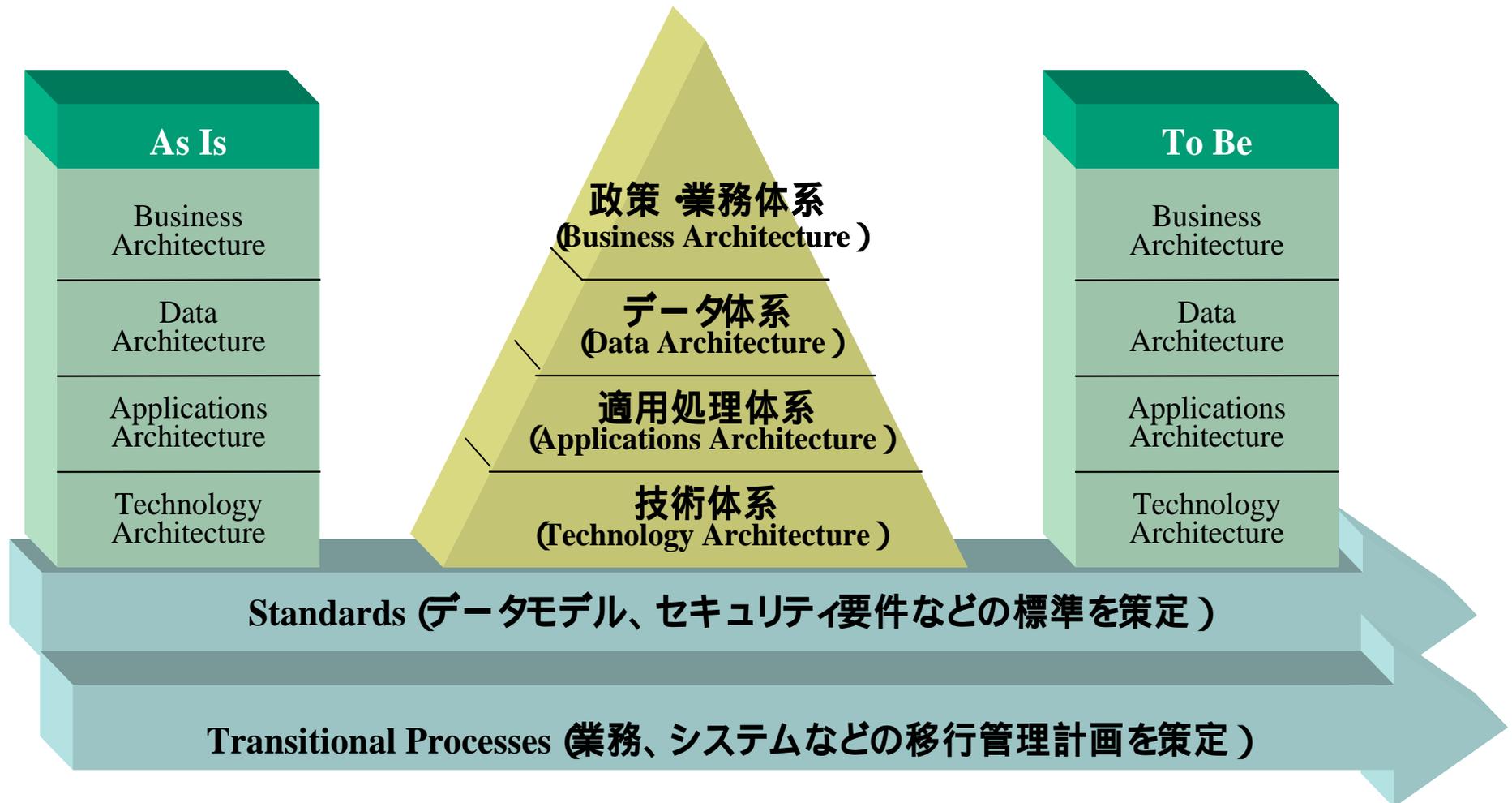
既存システムの最適化

エンタープライズ・アーキテクチャ

現状 (AsIs)
モデル

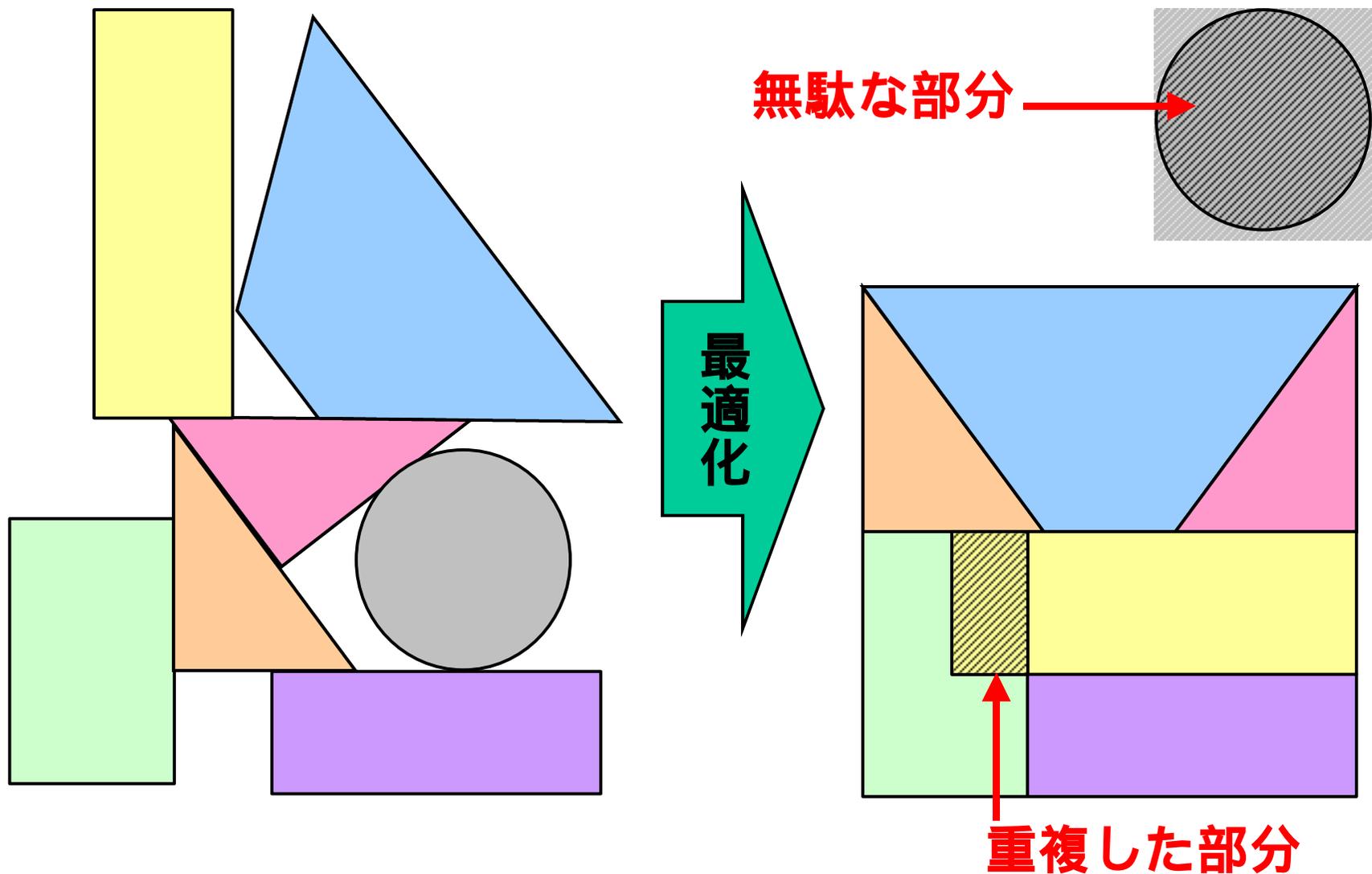
次期モデル

理想 (ToBe)
モデル



出典：経済産業省資料

既存システムの最適化

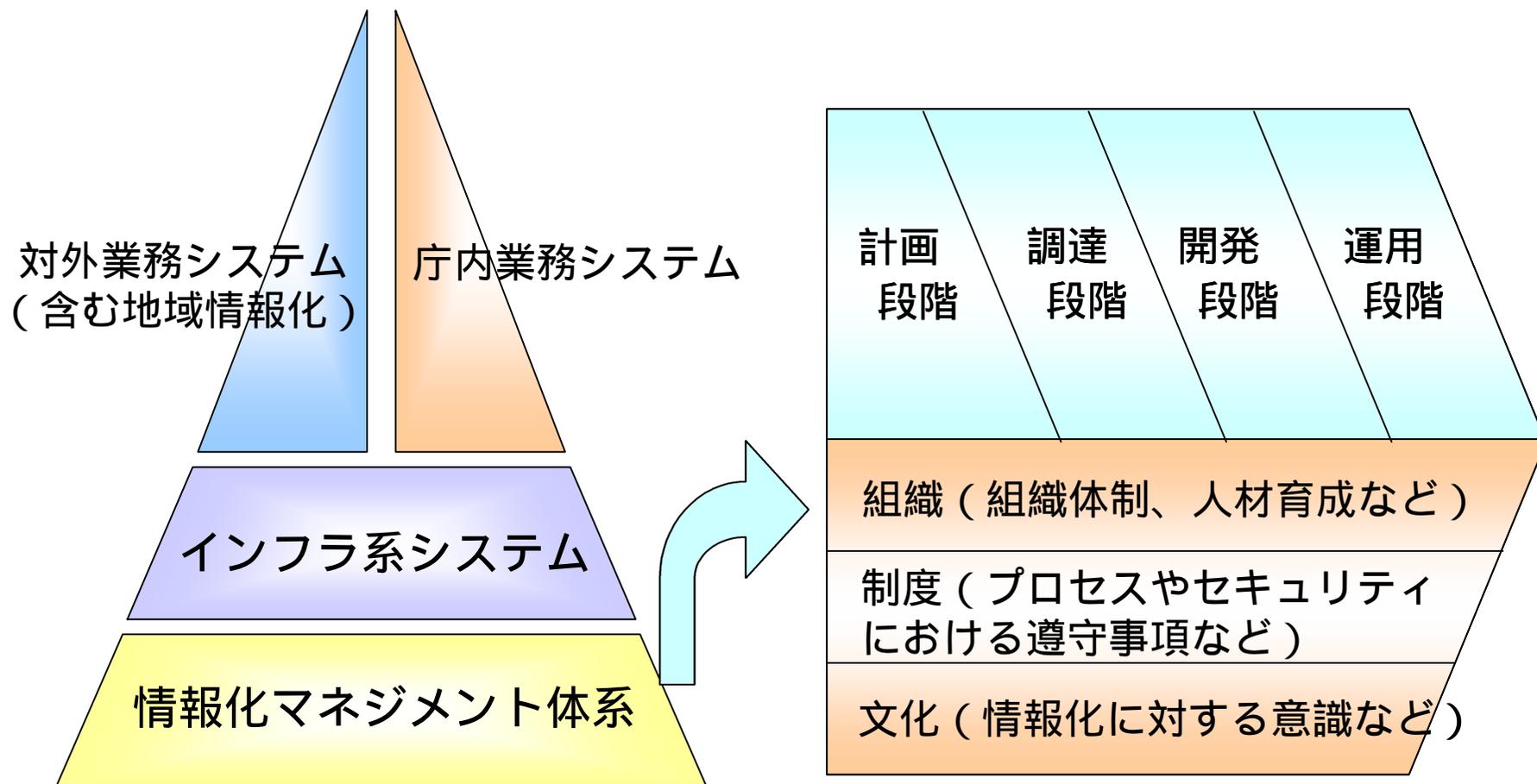


問題点と最適化方策の例

	最適化方策	問題点の例
重複回避と共通化	システムの統廃合	機能的に類似した情報システムが別々の組織で使われている。
	ネットワークの共用化	出先機関等で庁内LANと別のネットワークが構築されている。
	サーバの集中管理、集約化	サーバが過度に分散し、スペースや管理労力に無駄が生じている。
	端末の共用化	セキュリティを重視するあまりアプリケーション毎に違う端末を使っている。
	⋮	⋮
効果の最大化	利用者の利用促進	使い勝手が悪いため利用者が利用していない。
	利用範囲の見直し	庁内で情報を使うだけでなく、住民に提供することで更に効果が期待できる。
	業務プロセスの見直し	業務プロセス自体に無駄が多いため、情報システム利用の意義が薄い。
	⋮	⋮
費用の最小化	過剰な情報システムの見直し	過剰な処理能力の機器、余分な機能が存在する。
	端末やソフトウェア等の一括調達	原課毎に調達を行っているため非効率が生じている。
	情報システムの廃止	使われていない情報システムが存在する。
	共同開発・運用	費用面等の問題から再開発が滞っている。
	⋮	⋮
適切な技術やサービスの選択	最新技術によるシステム更新	技術的に古く他の情報システムとの連携が困難である。
	アウトソーシングやASPの活用	導入形態を見直すことで更なる費用削減が期待できる。
	オープンソースソフトウェアの活用	特定のベンダーに依存しているため費用や改善の柔軟性に制約がある。
	⋮	⋮

マネジメント体系の整備

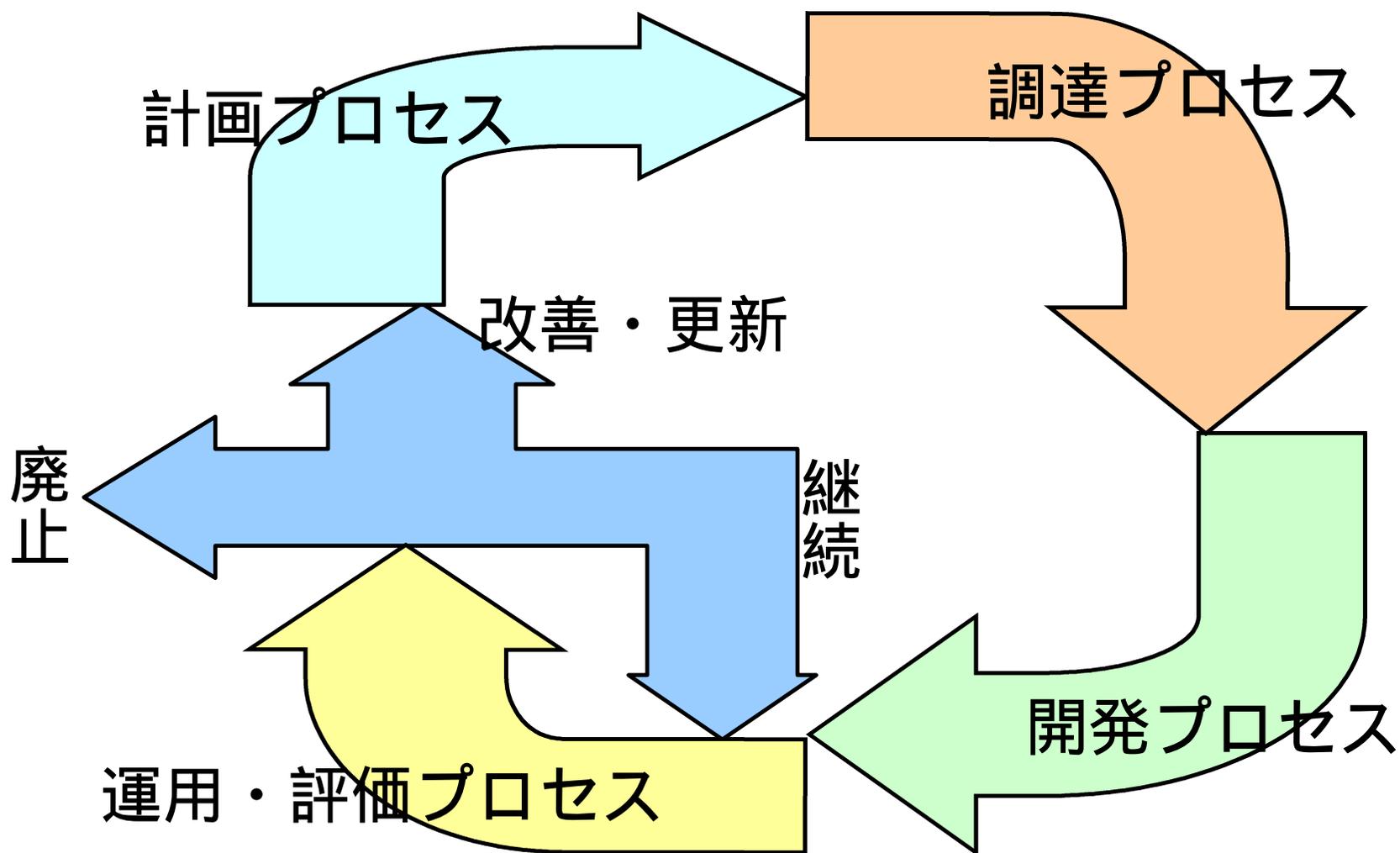
マネジメント体系とは？



情報化のアーキテクチャ

マネジメント体系

マネジメント・サイクルは回っているか？



三位一体の情報化推進

制度的アプローチ

- 個人情報保護条例、情報公開条例など
- 情報システムの運用管理基準など
- セキュリティポリシー、アクセシビリティガイドラインなど

政策的アプローチ

- 情報システムの導入など
- 情報通信基盤の整備など
- 市民や企業の情報化支援など

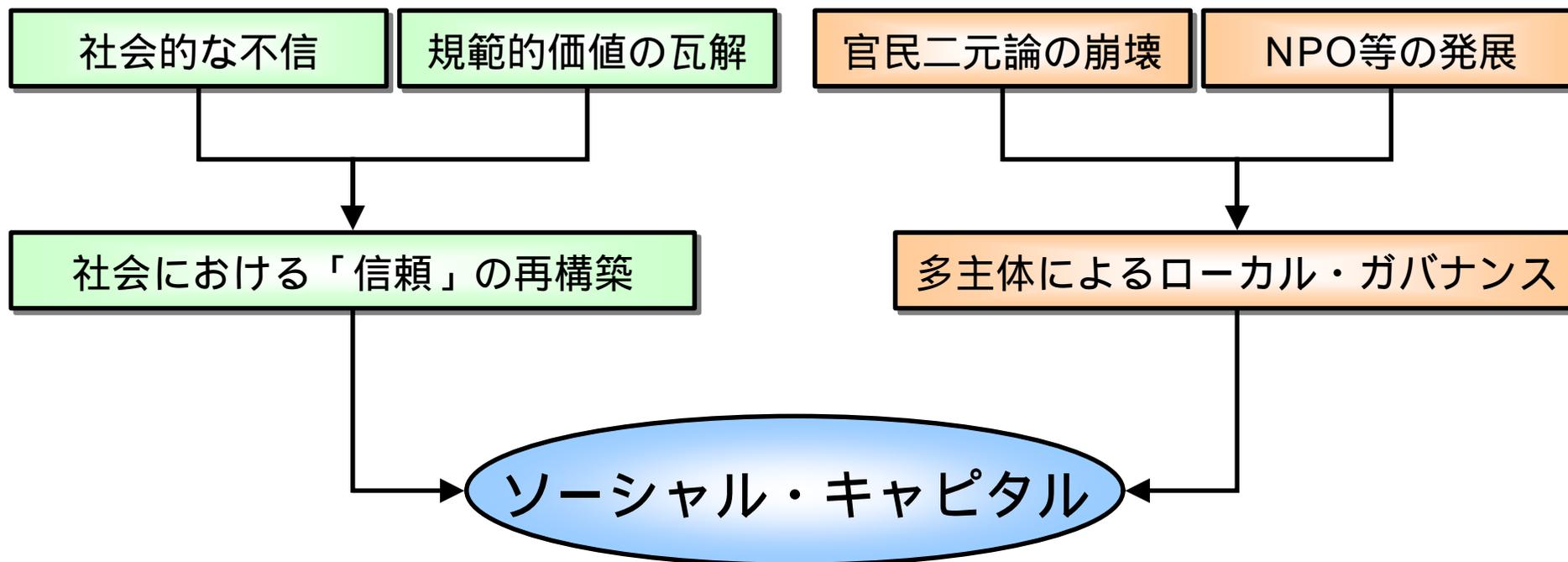
組織的アプローチ

- 全庁的な情報化推進体制の整備など
- 情報化主管部門と利用部門の役割分担の明確化など
- CIO、CIO補佐官等の組織横断的に情報化を担う役職の設置など

あたたかさのある電子自治体

ソーシャル・キャピタル

「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」であり、「社会関係資本」、「人間関係資本」等と訳される。



ソーシャル・キャピタルに寄与する電子自治体

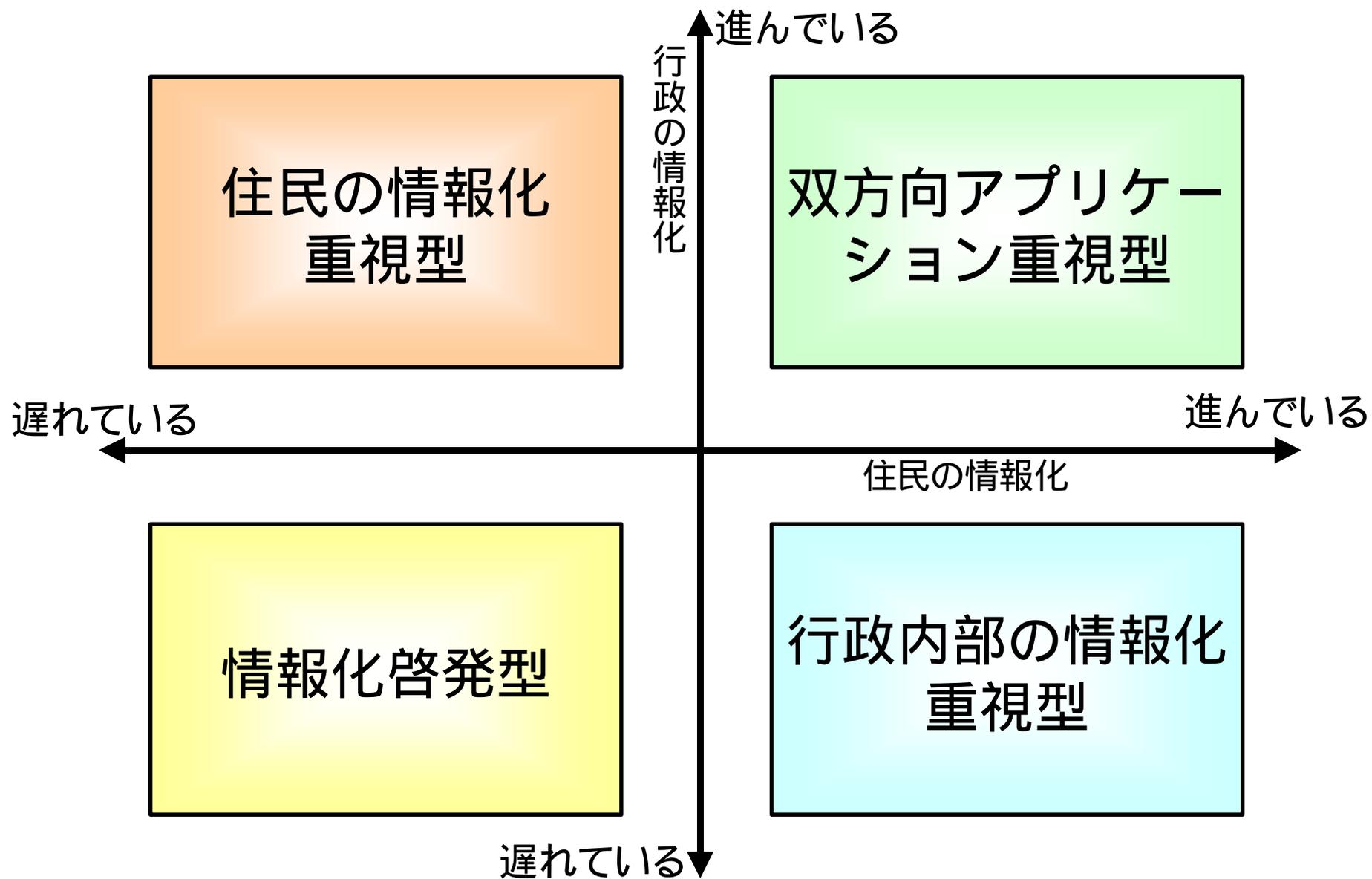
フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを阻害しない電子自治体

他の地域主体との連携を強化する
電子自治体

地域の枠に囚われない連携を促す
電子自治体

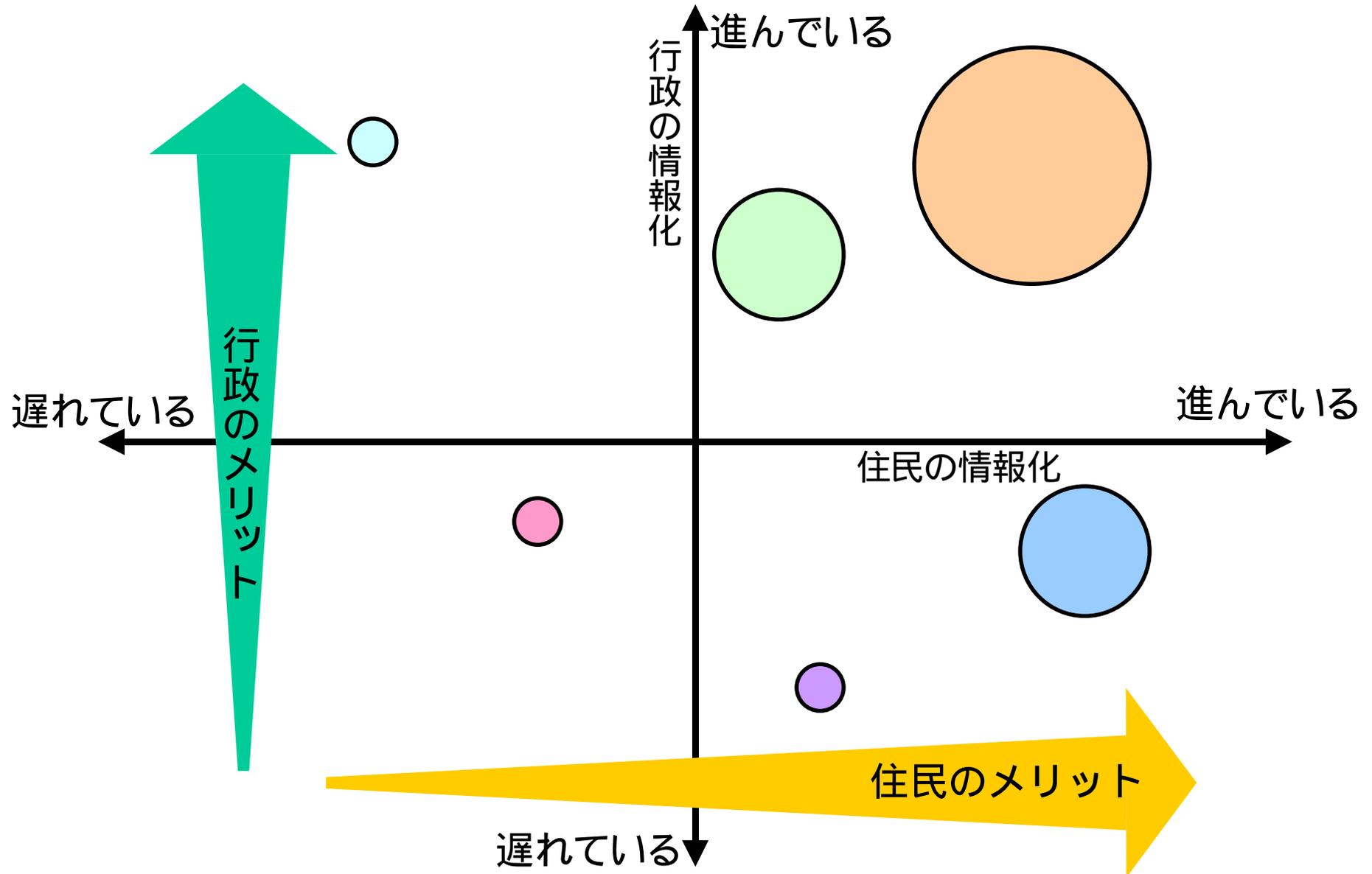
その他

情報化のポジショニング



フロントオフィスの共同運用について

便益の違いを運営の仕組みで吸収できるか？



バックオフィスの共同運用について

